

世界に平和を・戦争の基地はいらない

横田基地ミニ情報 2017.10.25 No. 306 東京・羽村平和委員会発行



高江炎上のCH-53E大型ヘリと同型機 事故後1週間で飛行再開



牧草地で炎上した CH-53E 大型ヘリコプターには、放射性物質が含まれていることを米軍は認めました。しかし米軍は日本の立ち入り調査を拒否、車を持ち入れ牧草地を荒らし、大量の土・牧草まで持ち去りました。米軍になにも言えない日本政府、情けない。さらに、1週間後の18日には、事故機と同型機のCH-53Eの飛行を説明もなく再開。高江の上空を飛行しました。

高江炎上のCH-53E(YF04)大型ヘリ 6月1日久米島に緊急着陸していた



米海軍安全センターは、重大な「クラス A」事故を起こした機体の詳細などを開示しています。事故機は製造番号が「163078」で「YF-04」であることが分かりました。

「YF-04」は横田基地にも8月29日に飛来し9月1日に離陸したことが分かっていますが、6月1日には沖縄の久米島空港に緊急着陸していたことが分かりました。この時は「訓練中に不具合を示すランプが点灯して緊急着陸した」そうです。

8月 豪東部沖で墜落したオスプレイ 奄美空港に緊急着陸した機体と同じ！



今年8月5日、オーストラリア沖で米海兵隊普天間基地所属のMV-22オスプレイが墜落しました。23人は救出されましたが3人は行方不明となり、翌日には死亡とされました。昨年12月13日に名護市沖の浅瀬でオスプレイが墜落し、2人が負傷しましたが、これが普天間基地所属オスプレイの初めての墜落事故でした。



オーストラリア東部沖の墜落事故は2度目で、しかも死者が3人です。日本国内での事故ではなかったため、その後のニュースもあまり見かけませんでした。

横田基地に飛来し、墜落事故を起こした米軍機がここ1年間で3機(F/A-18、オスプレイ、CH-53E)ありました。オーストラリア沖事故の機体番号が気になっていました。

米海軍安全センターの「クラス A」事故の一覧から製造番号は「168634」で、「EP-13」であることが分かりました。横田基地には飛来していませんでしたが、今年6月10日、奄美空港に緊急着陸していた機体だったことが分かりました。写真上は奄美空港に緊急着陸した同機。写真下は、ほぼ1ヶ月後に引き上げられた同機(地元紙より)。

横田基地所属のC-130H輸送機 10月16日2機が最後の帰投 (No. 306 裏面)



10月16日、空軍で現役で運用されているC-130H ハーキュリーズとしては最後の2機が横田基地を離陸しました。43年の時を経たそうです。

横田基地では16日、壮行会が開かれました。

左上の写真は米軍横田基地 HP からですが、横田基地を去る最後のC-130Hに敬礼する第374航空機整備中隊の隊員たち。同中隊は、地球の50%に及ぶエリアで戦術空輸を行う14機のC-130Hの整備を行ってきました。C-130Hの後継機はC-130J スーパーハーキュリーズです。(写真は最後の離陸機)

《防衛省(北関東防衛局)からの情報提供 2件》

米空軍グローバルホークの横田基地への一時展開について (情報提供1)

今年5月1日から横田基地に一時展開している米空軍無人偵察機グローバルホーク5機については、米側から、10月23日の週に撤収を開始し、10月31日までに完了する予定である旨の情報がありました。 ※本件については、北関東防衛局のホームページに掲載される予定です。

横田基地における演習等の実施について (情報提供2)

○ 実施内容及び日程等

- ・内容：サムライ即応監査 (SRI)。有事における即応態勢の維持強化及び演習に対する監査
- ・日程：2017年10月22日(日)から10月27日(金)の間、通常の運用時間帯において、横田基地所属のC-130Jの運用が行われる可能性があるほか、米軍の運用上の必要性から、10月26日(木)午後10時から翌27日(金)午前6時の間に、同機(1機)の運用が予定されている。

○ PAS、GBS及び煙幕等の使用

- ・10月23日(月)から10月27日(金)の間、通常の時間帯において、基地内全域でのPAS及び管理区域でのGBSの使用の予定がある。・煙幕の使用予定はない。

【要請】 横田基地周辺市町基地対策連絡会から在日米軍横田基地第374空輸航空団司令官に対して、2017年10月20日に口頭要請を行いました。

- ・航空機の運用については、通常の運用時間帯以外には、極力実施しないこと。
- ・市街地上空での低空・旋回訓練は行わないこと。
- ・PAS及びGBSの使用にあたっては、音量及び時間帯をはじめ、基地外に影響を及ぼさないよう十分な配慮を行うこと。
- ・周辺住民の不安軽減のため、訓練情報の早期提供を徹底すること。

【参考】 ・SRI(サムライ即応監査)：ORE(運用即応演習)を実施し、監査するもの。

※ORE：仮想戦闘環境における基地の機能テストでありテロ攻撃や航空機または地上戦闘力等による基地への攻撃を想定し、実践的な即応態勢をとることを訓練するもの。

- ・PAS：大音響のでる特殊なスピーカーを使用し、サイレンや広報を行う。
- ・GBS：地上爆発模擬装置。金属製の容器内で、爆発物を破裂させ、爆発音を発生させる。

● 11月2日(木) 東富士演習場及び北富士演習場でMV-22オスプレイ4機が離発着訓練